

ニュース・年間行事

■2008年

- 11月27日 第15回ホソカワ粉体工学シンポジウムの開催
 - ・枚方本社の12階にて、「環境・エネルギーとナノパーティクルテクノロジー」をテーマにした4件の講演があり、58人の参加があった。

■2009年

- 1月29日 ホソカワ粉体工学振興財団贈呈式
 - ・恒例の贈呈式がホソカワミクロン本社にて開催された。本年のKONA賞は高橋実先生が受賞され、記念講演が行われた。参加者43名。
- 2月10日 旧型パウダテストのメンテナンスサポート終了について
 - ・粉体特性評価装置パウダテストは、1969年の発売開始のPT-D/E型から最新機種PT-S型までに新旧4世代の型式があるが、本機修理等のメンテナンスサポート業務を下記の通り古い機種から順次終了することになった。
 - パウダテストPT-D/E型…
メンテナンスサポート終了 2009年9月
 - パウダテストPT-N型…
メンテナンスサポート終了予定 2010年9月
 - パウダテストPT-R型…
メンテナンスサポート終了予定 2011年9月
- 2月18~20日 nanotech2009への展示
 - ・ナノクリエーターFCM-MINI, ナノリスク対策用プッシュプル型換気装置セーフティブース, 粒子複合化技術循環型メカノフュージョンAMS-MINI (医薬仕様), 育毛剤ナノインパクト, スキンケア基礎化粧品ナノクリスフェア, 固体酸化物形燃料電池 (SOFC) 用材料等を展示。
- 3月6日 つくば受託加工センター竣工
 - ・昨年4月, 当社つくば事業所内で新たに、「つくば受託加工センター」の建設に着工し, 本年1月, 建屋建設工事が完成した後, 機械設備の新・移設および人員の移動が完了し, 竣工式が行われた。
- 3月9日 ホソカワアルピネ ジャパン株式会社 新型テスト機導入
 - ・日本, アジア, 環太平洋諸国を対象に本事業を展開しているアルピネ社の国内子会社ホソカワアルピネジャパン(株)は, これまでの5種5層テスト

装置に替えて, 親会社アルピネ社が開発した新しい7種7層プラスチック薄膜製造装置を同社の「フィルムテストセンター」に設置し, 拡販に向けて客先テストの受け入れを開始した。

- 5月11~15日 ACHEMA2009出展
 - ・化学技術・環境保護・バイオテクノロジーに関する世界最大の見本市ACHEMA (アヘマ展) に, ホソカワミクロングループとして出展し, 当社を含め, グループ企業の最新技術及び製品を展示した。
- 6月23日 ニュースリリース: サメ由来の化粧品用高濃度・高品質コラーゲンの開発成功と販売開始
 - ・(株)ホソカワ粉体技術研究所は, 独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) の助成事業による「サメの高付加価値化に関する研究開発」に関する共同研究において, 高濃度でありながら化粧品用に適したコラーゲン (HCOS) を得ることに成功し, 販売を開始した。
- 7月1日 株式会社ホソカワ粉体技術研究所のホソカワミクロン株式会社への統合
 - ・(株)ホソカワ粉体技術研究所が, 親会社のホソカワミクロン(株)に統合され, その研究開発部門として粉体工学研究所と改名された。
- 7月29日 ニュースリリース: 燃料電池の白金使用量を大幅低減—当社独自技術応用の産学協同開発
 - ・独自に開発した「メカノケミカルボンディング技術 (MCB) をベースとして, 首都大学東京 (金村聖志教授) および大阪大学 (内藤牧男教授) の研究グループは固体高分子形燃料電池の電極に使用する白金の使用量を従来に比べて大幅に低減させる新たな「電極触媒製造技術」を開発した。
- 8月28日 第43回粉体工学に関する講演討論会の開催
 - ・今回のテーマは「ナノテクノロジーによる粉体の機能化と新材料開発」。参加者160名。
- 9月4日 ニュースリリース: NEDOが『薬剤溶出型PTAバルーンカテーテルに関する共同開発プロジェクト』を「次世代戦略技術実用化開発助成事業」として採択
 - アンジェスMG株式会社の提案による薬剤溶出型PTAバルーンカテーテルの共同開発プロジェクトが, NEDO助成事業として採択され, 当社は同社とメディキット株式会社と3社で共同して進めていくことになった。(事業期間: 平成21年10月~平成23

年3月)

○10月21日～24日 国際粉体工業展大阪2009への出展
・媒体攪拌型気流乾燥機ゼルビス, 媒体攪拌式粉砕機プルビスPV-250, カウンタージェットミル400TFG, フレキシミックスFDX100, サイクロミックスCLX-5, ナノクリエーターFCM-MINI, セーフティブース, パウダテスタPT-S, メカノフュージョンAMS-MINI, ノビルタNOB-MINIを展示。

編集後記

昨年秋からの金融危機による厳しい経済不況, そしてアメリカでは新しいオバマ大統領体制に変わり, 日本では民主党の鳩山政権に交代と, 世の中が大きく変化する中, 本年7月には本誌を出版していた(株)ホソカワ粉体技術研究所も, 親会社であるホソカワミクロン(株)に統合され, 経営陣の交代もあり変化の大きな1年でした。

21世紀になって早10年, ナノテクノロジーや, ナノ粒子技術はまた新しい段階に差し掛かっているように思われます。巷では「エコ」が脚光を浴び, ハイブリッド車の売れ行きが好調な一方, 日本でも熱帯でみられるようなゲリラ豪雨が発生したり, 北半球の動植物の生息地域が北上したりと, 地球温暖化がいろいろな面で現れてきており, 環境・エネルギーの問題が改めて一段と重要になってきている感があります。これらの問題についても, 粉体やナノ粒子が貢献できる分野が多くあると思われます

本号は, 昨年11月に開催されました第15回ホソカワ粉体工学シンポジウムならびに本年8月に開催されました第43回粉体工学に関する講演討論会の講演内容の特集を中心として編集されています。

なお, 本号より, 50年余り続いてきました紙媒体での出版を取り止め, インターネットでの電子出版に移行することになりました。

本誌につきまして, ご意見, ご要望等がございましたら, 何なりとご連絡頂ければ幸いです。また, 粉体, 微粒子やそのプロセッシング, ハンドリングに関するご寄稿を歓迎致します。

“粉砕” No.53 (2010)

2009年12月8日 発行

編集発行責任者 横山 豊和

発行所 ホソカワミクロン株式会社

大阪府枚方市招提田近1丁目9

電話: 072-855-2307

FAX: 072-855-2561

印刷所 (株)NPCコーポレーション

大阪市北区天満1丁目9-19
